

【令和5年度実績】

1. 国際的な環境、民族、社会問題研究

「研究」

No.02 (1)-2 卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化, No.18 (1)-1 自由な発想に基づく基礎研究の推進および新興・分野融合研究の開拓, No.20 (2)-1 社会の要請に応える研究の推進, No.27 (1)-2 持続可能でレジリエントなグリーン未来社会構築への貢献

実績報告

■北極域研究加速化事業

・気候変動の北極社会に及ぼす影響を、水文気象学・人類学・保健学による文理融合アプローチで運営し、成果を挙げた。成果は北極域の研究—その現状と将来構想などの図書で公表した。北極研究の成果をもとに、ドキュメンタリー映画で北極研究の証言者として成果の普及を行った。

■人間文化研究機構グローバル地域研究事業東ユーラシア研究プロジェクト

・マイノリティの権利とメディアに関わる人類学・政治学・社会学の学際研究を運営し、ロシアのウクライナ侵略に関わる少数民族の国際移動に関する現地調査で成果を挙げた。



DEAR ARCTIC – A Documentary Film About Arctic Research

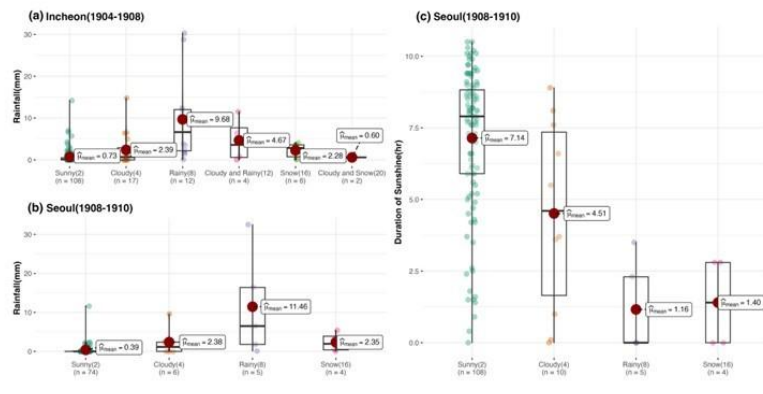
■歴史学による気候変動研究

文理融合研究により人文史による気象学の新しい分野を開拓した。

・朝鮮王室の秘書機関である承政院の執務日記『承政院日記』データベースを利用し、1623年から1910年までの288年間の気象観測データセットを構築した。この機械可読のデータベースは長期的な気候変動の調査や過去の気候調査に非常に有用である。

・17世紀前期の対馬藩の大陸情報収集活動を徹底的に解明した。これには大韓民国国史編纂委員会に所蔵されている対馬宗家文書を活用した。

・以上の成果について国際誌論文と著書を発表し、中国で講演を行った



承政院日記と、推定された 20 世紀初めの気象

■多民族国家の政治心理学研究

・国際的な政治課題の解消に向けた新しい心理学アプローチの有効さを示す研究成果を挙げ、解決に向けた提言を行った。

・ロシア、中国、イランという多民族国家を対象に政治心理学的に研究を進めた結果、政治的正統性の必要性から、集団情緒的歪み(社会的なヒステリー、大恐怖、集団的暴力のうねり)を、定期的に外面・体外空間に作り出さざるを得ないことを明らかにした。政治プロセスの研究には政治共同体に出現した集団行動の文化的・心理的メカニズムを考慮に入れる必要があることを示した。以上の結果は、国際誌(Oriental Institute Journal 1)、ニュースレター、国際会議等で発表した。

■ロシアの近隣諸国への影響評価

・2022年のロシア政府の動員令後に発生した戦争を忌避するロシア出国現象について、モンゴル側の政府・NGOと避難者に行った面談調査から、モンゴル系少数民族のブリヤートの避難行動と適応について解明した。モンゴル側が同一民族意識にもとづく支援行動をとるのに対して、ブリヤートはむしろ言語や文化の違いを感じて疎外感を得ていることを明らかにした。この成果を国際誌論文に発表した。

■ロシア軍事史研究

・懸案のロシア問題の背景を考えるうえで、ロシアの歴史的な研究アプローチの有効さを示す成果を得た。

・1920年代から1930年代にかけてのスターリンの外交政策に関し、地理的にソ連は全方位外交を必要とし、従来のロシア史の知見に反し、対日外交を重視していたことを示した。

・満州事変の際のこれまで全く知られていなかったソ連極東における通信事業と気象観測事業を解明した。

・満州事変の際のソ連の食糧事情を解明した。これは現在のウクライナ問題で提起された食糧問題と関係する重要な成果である。以上の成果を5編の論文として発表した

■東アジアにおける戦争記憶の国際比較共同研究

・国際政治にも大きな問題となり理解が求められている戦争記憶について、心理学による新しい手法を提案し、多国間での理解を進める成果を得た。

・ロシア、中国、ベトナム、台湾、日本の戦争記憶について、国際比較によって相対化するとともに、心理学の側面から記憶の世代間継承とコレクティブトラウマに着目した新たな研究の可能性があることを示した。

■在日外国人をめぐる社会問題解決

・在日外国人を対象としたアンケート調査を実施し、外国人の集住の社会的影響について解明した。近隣ネットワーク(日本人・外国人)の形成を通じて、社会的統合に間接的に負の影響を与える可能性があることが明らかになった。以上の成果を論文として発表した。

■人文科学による国際的な環境問題解決

・グリーンランドなど北極域での気候変動の社会的影響を解明し、論文及び書籍での発表を行った。国内ではデンマーク王国大使館などの支援の下、市民向けの公開講演会を行い、研究成果の普及を進めた

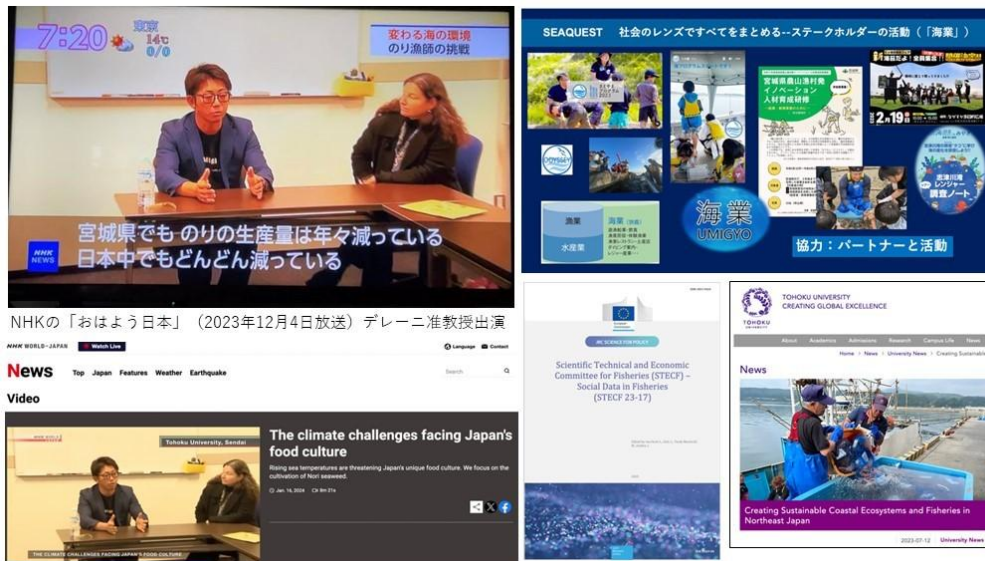
・気候変動をめぐる漁業問題に関して国際会議、国際ワークショップなどで問題解決のための提言を行うとともに、欧州委員会への科学的助言を行った(欧州水産科学技術経済委員会の委員としての提言)。

・宮城県を対象とした漁業文化の解明と国際比較を行い、持続可能な漁業を可能にする社会的取り組みについて提言する論文、著書を発表した



・持続可能な漁業のための提言や地域での取り組みを進めた。デレーニ・アリーンは、TBTI ジャパン(日本の小規模漁業を考えるネットワーク)の一員として研究委員会を立ち上げ、小規模漁業の持続を目指し、国内外で活用できる白書の作成に取り組んだ。こうした活動はメディア(NHK、水産経済新聞など)で大きく注目された。

・セヶ浜町と鎌倉七里ヶ浜町のパートナー都市による初の共同復興支援活動を行った。



[clim1.jpg](#), [ArCSO1.png](#), [環境2.jpg](#), [環境 1.jpg](#), [高倉.jpg](#)

2. 日本と東北アジアの歴史資源研究とデジタルアーカイブ

「研究」

No.06 (2)-4 「社会とともにある大学」としての社会連携の強化, No.30 (2)-3 文化・学術資源の発信

実績報告

■ デジタル人文科学

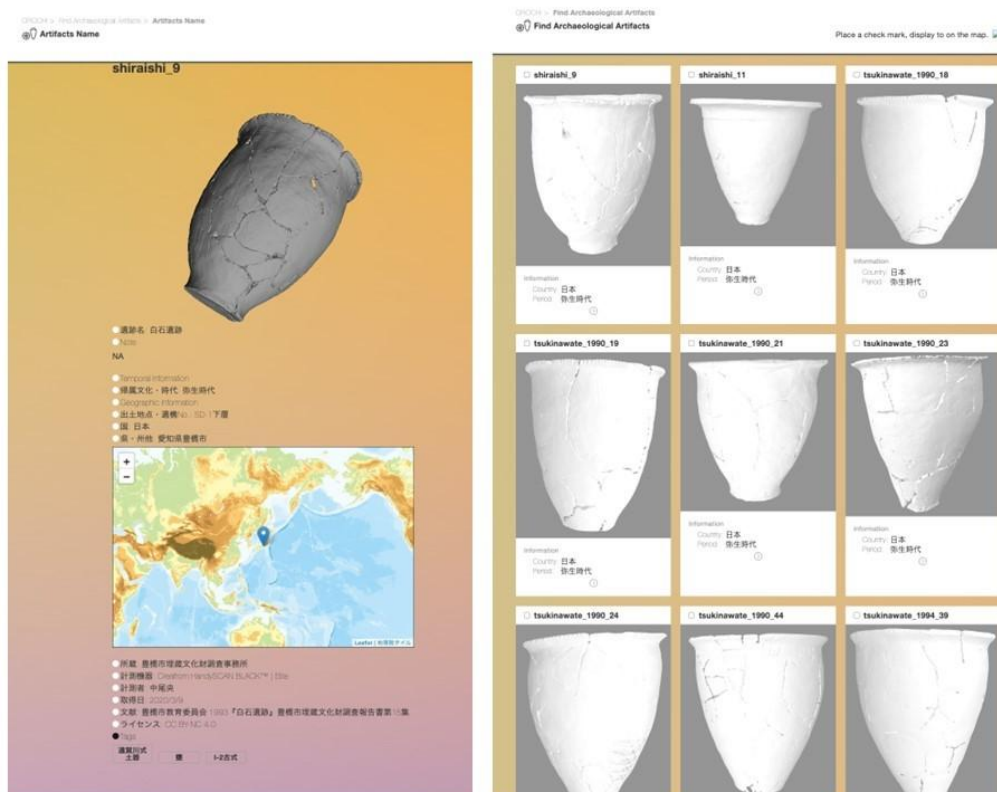
新しいデータ取得技術の開発と収集、およびそれらの社会的な有効性を示し、デジタルアーカイブ構築に貢献した

・人類学や考古学の人類史研究において 3D データの取得により、その利用と新しい分析手法の開発を行った (No.30)。

・自然現象から戦争までを含む大規模な災害が及ぼす社会影響を長期データの解析により解明した。

・モンゴルにおける 10 年間の世帯別家畜頭数のデータを分析し、干ばつと雪害が家畜頭数における格差を拡大・固定化していることを明らかにした。

・以上の成果を著書(カタチの由来、データの未来: 三次元計測の人類史学)、論文 (Sustainability Science, 19) などに発表した。



3Dによる人類史データ: デジタルアーカイブ用に作成

■ 歴史資料の収集と保全活動

東北地方を中心に歴史資料収集と保全活動、データベース構築を行い、社会との連携のためさまざまな社会発信を行った。

- ・宮城・山形・福島三県を中心に、地域に伝来する歴史資料の保全活動を展開した。
- ・江戸時代の武士に関する資料を分析し、財政危機に対する武家社会の対応を解明、江戸時代の身分制や地域社会のあり方を問い直す成果を得た。
- ・地域に伝来する古文書 100 点以上を収集、解読し、戦国時代から幕末期に至る歴代当主の経歴や、職務・法令・文化などに関する記録を解明したうえ、保存した。
- ・これら古文書などの資料をデジタル化し、記録、保存を行った(No.30)
- ・以上の成果を論文、著書にて発表したほか、市民向けに多数の講演を行い、情報発信を行った(No.6)
- ・以上の成果は、新聞などメディアにて紹介され、文化・学術資源の発信に貢献した(No.6)



■ 日本学

・国際的な学術出版社 Routledge 社から東日本大震災復興における地域文化の役割を論じた単著「Anthropology and Disaster in Japan」が Routledge Focus on Anthropology シリーズの一冊として刊行されたが (<https://www.routledge.com/9781032372396>)、この書評が学会誌「文化人類学」88(3)号に掲載された。またこの研究に絡んでインターネットメディアの HUFFPOST に取材記事が掲載された。

https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_65cefo02e4bof7fbe7b22740

・デジタルアーカイブと関連し、統合日本学センターと日本学国際共同大学院の設立に向けた準備と運営に貢献した

 [荒武 1.jpg](#),  [荒武 2.jpg](#)

3. 東北アジア人類史・自然史研究

「研究」

No.06 (2)-4 「社会とともにある大学」としての社会連携の強化, No.18 (1)-1 自由な発想に基づく基礎研究の推進および新興・分野融合研究の開拓

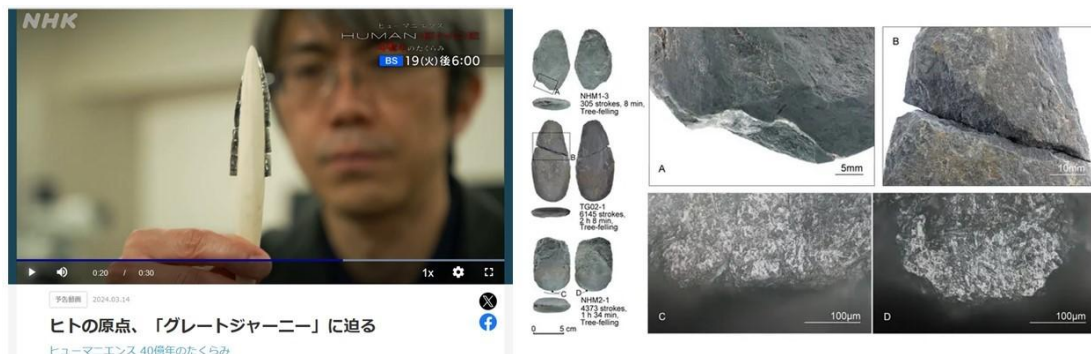
実績報告

■ 人類史と文化

・世界でも稀な旧石器時代の刃部磨製石斧に関する研究を基盤研究 A(23H00009、代表:佐勝宏)の一環として実施し、その成果(Journal of Archaeological Science 163)が EurekaAlert で取り上げられた(<https://www.eurekaalert.org/news-releases/1034349>)。

・国際先史学原史学会議(<https://uispp.net>)でセッションをオーガナイズし、ドイツ人研究者との共同研究の成果を発表した。

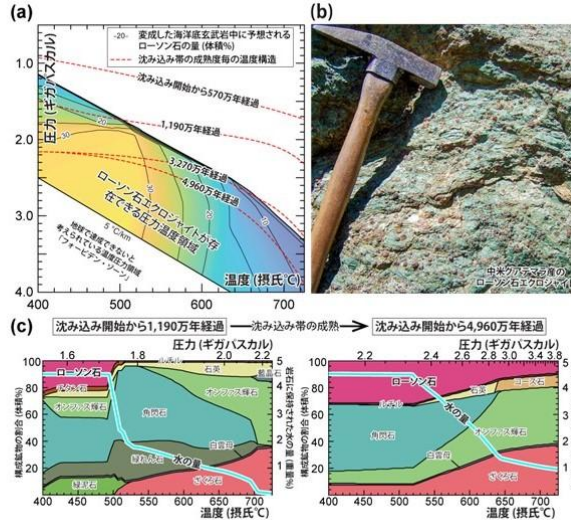
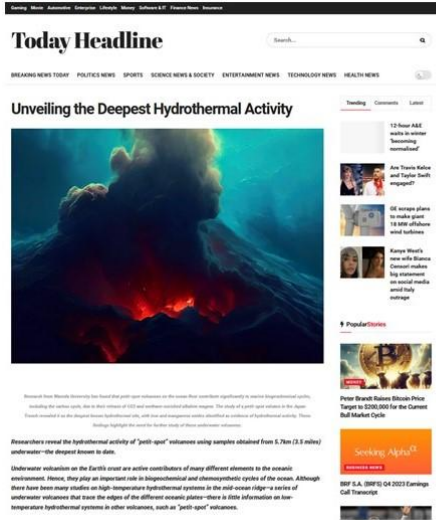
・ホモ・サピエンスだけが地球上のあらゆる環境に適応できた謎を解明する番組(NHK BS プレミアム「ヒューマニエンス」)
(<https://www.nhk.jp/p/ts/X4VK5R2LR1/episode/te/Y1XZV1WP77/>)に出演し、当該分野の普及啓蒙に貢献した。



■ 地球史

・変性海洋地殻の構成物の研究から、沈み込む海洋地殻の水の保持能力は沈み込み帯の成熟(時間の経過)とともに向上することを解明した。成熟した沈み込み帯においては水の貯蔵庫として働く岩石があり、水を地球深部へ輸送するが、新しい沈み込み帯では、その寄与は従来の考え程大きくないことを明らかにした。これら地球深部への水輸送の理解は、日本列島の地震活動や火山活動の理解に重要である。

・東北日本沖の水深約 5,700 m の海底から、従来存在しないと考えられていた太平洋北西部の超深海域で、世界で最も深い熱水活動を発見した。これには近年世界的に注目されるプチスポット火山が関与しており、熱水活動が排出するメタンや CO₂ は、地球レベルの炭素循環に影響を与えうる量であると推定された。熱水孔付近の深海生物生態系についても重要な意義を持つ。この成果は世界のメディアで注目され、報道された。



■ 生物多様性

・東北アジアと南半球に隔離分布する陸貝類のように、南北の周極域に分かれて近縁な系統が分布するパターンがあり、謎とされていたが、渡り鳥が南北両極域の生物を異動させているという考えを出した。本州で捕獲されたオーストラリア経由のシギから、オーストラリアの淡水貝を発見し、この考えを裏付けた。この論文の成果は各種メディアで紹介された。

・従来考えられていた外来種の日本への移入ルートを見直す必要があるなど、保全研究の成果のほか、従来知られていなかった貝類共生藻類の宿主変更による種分化の証拠、紫外線が及ぼす生物への負の影響とそれに対する耐性の進化の証拠を得るなどの成果を、11編の論文に発表した

・ニホンヤモリが中国由来の外来生物であり、国内の輸送の発達とともに分布を拡大した研究成果が、NHK・ダーウィンが来た、で紹介された



[地学 1.jpg](#), [人類 2.jpg](#), [生物 2.jpg](#)

4. 社会に対するロシア・ウクライナ理解促進

「社会との共創」

No.06 (2)-4 「社会とともにある大学」としての社会連携の強化

実績報告

■隣国ロシアを理解するための東北大学講座

・高校生を対象とした、隣国ロシア理解のための連続講座を実施した。6回にわたり歴史・文化・メディアについて講義を行い、毎回12校ほどの高校が受講し60人ほどが受講した。高校生からの質疑応答も活発に行われ、オンラインによる高校生中心対象の公開講演会がアウトリーチとしては社会および教員側双方に肯定的な効果があった。

1)実施期間 2023/10 から 2024/2

(2)講座内容及び講師

- 1 人類史からみえるロシア 担当 高倉浩樹(東北大学教授)(23/10/16)
- 2 歴史からみえるロシア 担当 寺山恭輔(東北大学教授)(23/11/6)
- 3 絵本からみえるロシア 担当 藤原潤子(神戸市立外国語大学准教授、元センター研究員)(23/11/28)
- 4 宗教からみえるロシア 担当 磯貝真澄(千葉大学教授、元センター助教)(23/12/14)
- 5 メディアからみえるロシア 担当 巽由樹子(東京外国語大学准教授、元センター研究員)(24/1/17)
- 6 アニメからみえるロシア 担当 パホモフオレグ(東北大学助教)(24/2/1)

・申し込み校 23校、東京都5校、宮城県3校、秋田県2校、北海道2校、シンガポール、京都府、群馬県、山口県、新潟県、千葉県、大阪府、富山県、兵庫県

・講座への参加校 1回目:14校、2回目:不明、3回目:12校、4回目:11校、5回目:11校、6回目:10校

高校生のためのオンライン授業

隣国ロシアを 理解するための 東北大学講座

2022年のロシアのウクライナ軍事侵襲は驚いて訪れるものでありませんが、これを正しく理解するためにも隣国としてのロシアの理解を深めることが、いま求められています。
本授業では、多民族国家としてのロシア、東アジアとの関係などの観点から講義をわかない、正しい国際理解を行うことを目的としています。

お申し込みはこちらから
<https://forms.uo99k3XoUNLXBj9>



講座名	講師	日時
人類史からみるロシア	高倉 浩樹 東北大学助教授	10.16 (月)
歴史からみるロシア	寺山 浩樹 東北大学助教授	11.6 (月)
絵本からみるロシア	藤原 真子 東北大学助教授	11.26 (水)
宗教からみるロシア	藤原 真子 東北大学助教授	12.14 (木)
メディアからみるロシア	宮田 裕子 東北大学助教授	1.17 (木)
アニメからみるロシア	宮田 裕子 東北大学助教授	2.1 (木)

■ウクライナ問題

・社会におけるウクライナ問題の理解促進のため、特に日本として重要で貢献が期待される難民問題に関して講演会をおこない、社会への提言を行った。

東北大学東北アジア研究センター公開講演会

ロシアによるウクライナ侵攻を契機に 庇護希望者・難民を考える

2024
2/10 (土) 14時～17時 **入場無料** (Webinar参加費は別途)
東北大学片平さくらホール
(ハイブリッド開催)

ロシアによるウクライナ侵攻により、多くの人がウクライナから他国に逃れ、庇護を求めている。こうした人々は難民といえるのか、日本でも入管法改正に絡んで議論を呼んでいる。逆にロシアからも兵役を逃れるために多くの人が他国に逃れ、庇護を求めている。こうした人々も難民といえるのだろうか。また日本では、日本語学校の元理事がウクライナからの避難民を「難民詐欺」と呼び、報道機関により批判的に扱われたが、これは難民をみずけらしい身なりの人たたと捉えるなどのバイアスの問題を提起する。

本セミナーではロシアによるウクライナ侵攻を契機に、こうした庇護希望者・難民をめぐる諸問題を考える。

■登壇者 / 安藤由香里 (富山大学教授・国際人権法)
岸見 太一 (福島大学教授・政治学)
坂東 雄介 (小樽医科大学教授・憲法)

■コメンテーター / 小坂田裕子 (中央大学教授・国際人権法)

■司会 / 高倉 浩樹 (東北大学教授・社会人学)

参加希望者はQRコードからお申し込みください。
お申し込み詳細: [Webinar参加費](https://forms.uo99k3XoUNLXBj9)

tohoku.ac.jp/japanese/ tohoku.ac.jp/japanese/
申込締切: 2024年2月3日(土)17:00

〒5-1-8 人権文化研究機構グローバル地域研究事業
東ユーラシア研究プロジェクト東北大学拠点
〒5-1-8 東北大学国際法政策センター
TEL: 東北アジア研究センター contact@ceas.tohoku.ac.jp

プログラム

時間	内容	司会
14:00-14:05	開会あいさつ	高倉 浩樹
14:05-14:10	講演要旨・講師紹介	(東北大学助教授・国際人権法)
14:10-14:50	講演1: 安藤由香里 (富山大学教授・国際人権法)	
14:50-15:30	講演2: 岸見太一 (福島大学教授・政治学)	
15:30-15:45	休憩	
15:45-16:25	講演3: 坂東雄介 (小樽医科大学教授・憲法)	
16:30-16:40	コメント: 小坂田裕子 (中央大学教授・国際人権法)	
16:40-17:00	自由討議	
17:00	閉会あいさつ	

 [ウク.jpg](#),  [ロシア 1.jpg](#)

5. 教員の研究時間確保に係る取組

「教員の研究時間確保」

実績報告

■男女共同・協働に配慮した研究時間確保の取り組み

- ・大学内でのとくに女性教員の研究時間確保のため、授乳室など新たに措置した。
- ・多様性に配慮した効率的な研究時間確保のため、女性教員の増加を進め、本年度は10%の比率向上を行い、着実に比率を高めるとともに、人事選考委員会に女性教員を登用し、意思決定の際に女性の立場を考慮するよう努力している
- ・産休・育休から復帰した女性教員の研究時間確保と研究活動をサポートするため、搾乳室やおむつ交換台の設置などを通じて、授乳期でも安心して職場復帰ができる環境を整備している。
- ・育児休業期間中の研究費の柔軟な対応により、若手女性研究者の研究中断を防ぐ取り組みも進んでいる
- ・ジェンダーフリートイレ(東北大初)において、ベビーキープを設置するなど、DEIの推進に努めている。

■業務の電子化とオンライン化による研究時間確保

- ・部局内のほぼすべての会議をオンライン化またはハイブリッド形式とし、また会議に必要とされる資料の電子化、集約化により、会議の効率化を図った。結果的に会議の総時間を30%以上短縮した。これにより研究時間を高めることができた
- ・部局内の小委員会の集約化に取り組み、数を減らして研究時間の確保を行った